

- 平成26年度より、自動車整備の仕事への高校生等の理解向上を図り、自動車整備の仕事に就職する若者を確保するため、国（運輸支局）が中心となり、自動車整備人材確保・育成推進協議会と連携して高等学校の校長等を直接訪問し、自動車整備の仕事の社会的重要性、将来性について説明を実施。
- 平成27年度も、引き続き、全国の運輸支局長等が協議会の担当者と共に、運輸支局毎に10校程度を訪問することを目標とし、4月30日から8月4日にかけて、全国642校に対して訪問を実施。（参考：平成26年度 562校）
- 訪問した多くの高等学校で、自動車整備の仕事や整備士が不足している状況を理解いただき、パンフレットを校内で掲示し、校内での情報共有するほか、進路指導の際に整備の仕事を選択肢として紹介する等の前向きな反応をいただいた。
- また、訪問時に高等学校よりいただいた様々な意見・要望については、自動車整備人材確保・育成推進協議会と情報を共有して、今後その対応策を検討し、順次国と協議会の取組みに反映させる。

高等学校からの主な意見・要望

自動車や整備の仕事への興味の低下	● 最近の高校生等は自動車や整備の仕事にあまり関心がなく、興味を持っている生徒が減ってきた。 ● 親の理解も重要。 ● 卒業生や先輩の声は影響力がある。
自動車整備のPR方法の改善	● メディアやマスコミの活用やDVD等によるPRが必要ではないか。 ● 小学生、中学生から車に興味を持つような取り組みも必要。 ● インターンシップなど、生徒が自動車整備の仕事を直接体験する機会が必要であり、増やしてほしい。 ● 生徒を対象に直接、説明会等を行ってほしい。
整備士養成校の学費について	● 整備士養成校は学費等で費用がかさむため進学を諦める場合があり、奨学金や補助金といった生徒の経済的負担を減らす対策が必要。
求人について	● 整備工場から高等学校に対して求人がない、又は少ない。毎年必ず数名の求人がほしい。 ● 働きながら整備士資格の取得ができることは魅力的だが、会社がバックアップする体制が必要。
給与等の労働環境の改善について	● 給与面等の待遇面での改善が必要。 ● 残業が多い、休みが取りにくい、土日勤務等は敬遠される傾向にある。 ● 自動車整備士として就職しても、途中から希望に反して営業業務に配置換えされ、会社を辞めるケースが多いと聞く。これを敬遠して整備業への就職を諦める生徒がいる。 ● 女性の活用のためには、女性が働きやすい職場環境の整備が必要。